



音楽のよろこび

2023年5月22日 No.49
発行文責 担当事務局
田中正恭 田村乃里子

前回4月24日は、今年度第1回目ということで、皆様に特にアンケートをお書きくださいますようお願いいたしました。たくさんの方に応えていただき、事務局として感謝申し上げます。その中の一つに、ホームページにアンケート用紙をのせてもらえたら、そこに書き込みたいというご要望がありました。ホームページの担当者に確認したら、「今すぐにはちょっと…」という事で、当面はお手紙かFAXでということになります。ご了承ください。その他数件ご要望をいただきました。これからの課題として検討していきたいと思います。



講座の内容に関しましては、ヴァイオリンとピアノのデュオ（二重奏）を心から楽しんでいただき、お話では、ブラームスのソナタが「手紙のよう。。。と言われ、音楽が皆様の心に深く豊かに届く、ヴァイオリンとピアノ演奏への道案内のように思えました。その他にも、演奏家の想いが確かに皆様に共有されていたことがわかる文面が、いくつもありました。演奏家にとってこんな幸せなことはないでしょう。

アンコールの「戦場のメリークリスマス」平和をいつもテーマにしておられた、坂本龍一さんの曲への共感の声が多数ありました。最高のパフォーマンスで私達を魅了したお二人に改めて拍手を贈りたく思います。

またお二人の演奏家の作り出した音楽をそれぞれしっかり受けとめ楽しまれた受講生の皆さまも、素晴らしいかと思います。コペンハーゲンとハンガリーのお話は、お時間があれば、もっと聞きたかったですね。

さて、そして今回はハープです。ハーピストの松村衣里さんは2019年度に一度、本講座に来ていただきました。2回目です。とても優雅に見え、音も美しくゴージャス。でも…でも演奏は本当に大変。それを難なくこなすハーピストはすごいなあ〜と感動と尊敬の混ざった感じを覚えています。オーケストラでハープの入ったパッセージは何とも言えない高雅な音楽に…そんな経験をお持ちの方もいるのでは。

今日は心ゆくまで天上の響きを楽しみましょう。共演は同じハーピストの松村多嘉代さん。プログラムは、お話と、ハープデュオ・ファルファーレ コンサート。

ファルファーレとは、イタリア語で蝶々。2台のハープで贅沢なコンサート、楽しみましょう

☆5月10日「佐竹裕介先生の音楽講座」に行ってきました☆（田中）

昨年7月末の本講座に来られた、ピアノの佐竹さん、コントラバス神吉さん、ヴァイオリン 田村さんの3人による、4回シリーズの2回目。「ベートーヴェンは何を変えたか」をテーマにお話と演奏。終了の翌日、神吉さんからのメール「～この企画ができるのは高齢者大学のおかげ……………」

次回は9月4日です。P.M2:00 北文化会館3階 興味のある方は田中まで。。。

～アンケートから～

いつもアンケートにご協力
ありがとうございます。
アンケートは一部抜粋したのもの
あります。ご了承ください。

息の合ったお二人の演奏素敵ですね。やわらかい
Vn(ヴァイオリン)と呼吸するPf(ピアノ)。実力
と人間味のでた演奏だったと思います。1700年代
に作られた弦楽器は今が最も良い音の出る時だ
か?これからも素晴らしい演奏を続けていただきま
すようお願いしています。(布川さま)

初めて受講しましたが、楽しかったです。演奏家の
話が聞けることがよかったです。今後とも楽しみに
しています。コペンハーゲンの話、もっと聞きた
かったです。

バイオリンの一音を聴いて、ふくよかであたたか
い音色だなと思いました。演奏する方のおだやかで
優しい音が出ているのでしょうか。「バリコニー」
では甘いためいき、ソナタでは強いメッセージを感
じました。戦争はほんとうにイヤ!(太田さま)

坂本龍一さんの「戦場のクリスマス」生の演奏初
めてでした。涙が自然と出てしまいました。
外国のオケや生活のお話楽しみですね。

ブラームスのピアノ、ヴァイオリンデュオ美しい
ハーモニーでした。ブラームスがクララシューマン
への手紙に託した曲と聞いて想像をめぐらしなが
ら聞いていました。プロコフィエフ ロシア系の音楽
家をはじめ芸術家はほとんどウクライナの地との結
びつきが強く、ロシアの芸術の美の真髄はウクライ
ナにあると思うことしきりです。戦争をする相手で
はなく、ともに手を取り芸術でも文化でも世界の高
みを目指してほしいです。有名なバレエ演目ロミオ
とジュリエットの「バルコニーの情景」ヴァイオリ
ンの高音の響き素晴らしかったです。(外村さま)

先生の人柄もあってか、ほのぼのとした講座になっ
て楽しかったです。(石田さま)

昨年度、最後の講義を体調不良で欠席。今日がと
ても待ち遠しかったです。安井さん揚原さんの素敵
なコンビの空気感がとても心地よく、すてきな時間
となりました。心ゆったりすることができたと思い
ます。(あらかさま)

ロックやポップミュージックでなく、幼いころに
ラジオから流れてきたクラシック音楽も好きです。
シンフォニーホール等での演奏会へチケットを買っ
て行きたいと思うのですが、チケットを買うのが
おっくうで、本音楽教室であれば、定期的にクラ
シック音楽に触れることができ、日頃の忙しさから
解放された豊かな気持ちになれると思い、参加しま
した。ヴァイオリンの音が好きで、心豊かで充実し
た1日を過ごすことができました。ありがとうございます
(荒井さま)

こちよい、午後のひと時を過ごすことができま
した。今月は早めに到着でき最前列で演奏者の表情
もよく見えてとても良かったです。最後に坂本龍一
さんの曲を演奏して下さったことも「平和」への想
いを感じました。(星野さま)

ヴァイオリンの楽器は非常にデリケートなものだ
と思っていたが、気温や湿度により変化するとのこ
と、演奏者は常に気を使ってやられているのだなと
(支柱を変えられること)初めて知りびっくりしま
した。雨の音はクララシューマンに送った曲とのエ
ピソードはほほえましい。「戦場のクリスマス」に
は感動しました。

演目は初めて聴く曲ばかりでしたが、とても良
かったです。とても心地よく聴けました。また、質
問コーナーでのお二人の受け答えに人柄の良さが
出てよかったです。

演奏とても素晴らしかったです。力強さの中に細
やかさ、そしてまろやかさ。心の奥にすーっと溶け
こんでいく体験でした。お二人の息の合った演奏に
幸せな気分になりました。

音楽のことは何もわからないのですが、生の演奏が近くで聴けて素晴らしかった。デンマークとハンガリーのお話が楽しかったです。



高校の同級生、息のピッタリ合った演奏ありがとうございました。とても音楽を愛し究める。とてもうらやましいです。1曲目安井さんが手紙のような曲とおっしゃっていましたが、優しく語りかけるような演奏でうっとり聴き入ってしまいました。1700年代製のヴァイオリン。たくさんの演奏家によりたくさんの聴衆を魅了してきたのでしょうね。アンコール曲「戦場のメリークリスマス」坂本さんの「人・自然を大切にす平和な世界を」メッセージを大切にしていきたいと思います。



やわらかいピアノの音色に前回佐竹さんのバッハと同じピアノかなと思いました。幅広い表現がある楽器と思いました。お二人の息がぴったりでお互いツーカーの仲ですね。



ブラームスの作風から演奏についてのお話、楽器のメンテナンス等他では聞けない話を伺い、楽しく知識を増やせました。ヴァイオリンの音色が大好きになりました。特に高音部の音は胸に響き、ピアノの乾いた音とマッチして合性がよいのだなと感じました。昨年からの教室に通い、カラオケぐらいしか音楽に触れていなかった私も、演奏会に音楽を聴きに行くようになりました。ありがとうございます。

先日ロームシアターでオペラ、フィガロの結婚を聴いたが、解説があり、オペラの進行は分かったが、外国語なので何を歌っているのかさっぱり分らず、なんで日本語で歌わないのか不思議に思いました。

この教室は前5列目ぐらいで聴いたので迫力がありました。



「雨の音」は手紙のやりとりのようです。と説明されましたが、演奏を聴くと本当に手紙の始まりから終わりのように感じ、とても良かったです。ピアノとヴァイオリンのかけ合いが面白い。ヴァイオリンの音域の広さにびっくりしました。今されですが、ヴァイオリンの音色の素晴らしさに感動しました。



ヴァイオリンが300年前の楽器と知り感激！

初めて参加した講座です。幼い私の拙いヴァイオリンを思い出しました。ブラームスがあんなに素敵な音楽とは知りませんでした。まるで会話をするように、「弾き交わす」そして「響きあう」切なくなりました。プロコフィエフはドラマチックで、聴いていてワクワクドキドキ、涙が出そうになりました。



お二人のおだやかな雰囲気、前半、とてもやさしい音楽が聴けました。プロコフィエフのロミオとジュリエットは前奏(?)が一番頭に残りましたが、あの静かな曲の場面もあるんですね。最後の「戦場のメリークリスマス」大きなプレゼントをありがとうございました。(藤井さま)



プロの生演奏が間近で聴くことが出来て最高でした。ヴァイオリンの音色が滑らかで美しい響きが心地よかったです。ブラームスは特に好きな作曲家で演奏会にも度々行っているがピアノとの絶妙なかけ合いがすばらしかった。トークも楽しかったです。



ブラームス…第一楽章 やさしい曲ですね。第二楽章 いい気持ちになってしまいました。プロコフィエフ…ロミオとジュリエットと言えばの曲はよく聴きました。バイオリンとピアノで遊んでますね。「のりこえ のりこえ」とう歌ってましたね。



素晴らしかったです。細い指であれだけの力強い音を出せるピアノの方、とても小さい音を出せるヴァイオリンの方、スゴイ！お二人の息がピッタリと合って気持ちいい音楽でした。戦場のメリークリスマス、涙出ました。



単純なんです、ヴァイオリンとピアノ。ものすごく聴きやすい。曲目はなじみなかったが、気持ちよく聴けました。



素晴らしい演奏でした。一流のお二人の演奏を身近に聴けて、感動し堪能しました。ありがとうございました。

♪音楽に関することば・・・

作曲家「ドボルジャーク」の「語り」から
(1841.9.8~1904.5.1)

《各号スペースがあれば、田中の独断でいいな~と思った「ことば」や「詩」・文学的成句などを書いていきます。》

「私は・・・ただのチェコの音楽家であり、それにとどまる」

彼が、世界的名声を博した時代にも、上記のごとく説明した。そしてアメリカで彼の作曲した鎮魂曲が勤労者の聴衆のためにのみ特別公演をされることになったことをきき、彼は故郷ボヘミア（チェコ）に、以下のごとく書いたのである。

「さて、これこそ全くすばらしい！私は気に入った。まる1週間パンのカケラのために骨折って働く貧しい人が、バッハやベートーヴェンやモーツァルトとも知り合いになる機会を持つてはならないはずがあるだろうか」

受講生の皆さまも、「新世界」や「ユモレスク」等、一度はお聞きになったことがあると思います。自然への深い愛情よき家庭人父として、また真の民衆の性質にもとずく、最も純粋な形での民主主義者であったのです。



次回は6月26日(月)

会場：鴨沂会館

13:00開場 13:30~15:30

「チェロ」 渡邊 正和 さん

何とも言えぬ魅力的音色、ヴィオラのちょうどオクターブ下に調弦される楽器。お楽しみに！

